

存在と時間 2 〈全8巻〉

第1部 時間性に基づいた現存在の解釈と、存在への問いの超越論的な地平としての時間の解明

第1篇 現存在の予備的な基礎分析

124 第1篇の構成

第1章 現存在の予備的な分析の課題の提示

第9節 現存在の分析論の主題

125 そのつどわたしの存在

126 眼前存在と現存在

127 現存在の「本質」

128 〈各私性〉

129 現存在の本来性と非本来性

130 現存在分析の課題

131 現存在の平均的なありかた

132 平均的な日常性のもたらす課題

133 平均的な日常性と実存

134 平均的な日常性の隠れた意味

135 実存カテゴリーとカテゴリー

136 実存論的な分析の必然性

第10節 人間学、心理学、生物学と異なる現存在の分析論の領域の確定

137 実存的な分析論の領域確定における問題

138 デカルトと実存の分析論

139 主観の理念の危険性

140 生の哲学の欠陥

141 デルタイ、シェーラー、フッサールの研究

142 人格存在

143 言葉をもつ動物としての人間の定義

144 キリスト教的な人間学の神学的な要素

145 人間の二つの定義の伝統

146 心理学と生物学の位置

147 実証科学の存在論的な基盤

第11節 実存論的な分析論と未開な段階にある現存在の解釈、「自然的な世界概念」を獲得することの難しさ

148 未開な段階の現存在の分析

149 存在論的な反復の作業

150 自然的な世界概念

151 存在論の役割

第2章 現存在の根本機構としての世界内存在一般

第12節 内存在そのものに基づいた世界内存在の素描

152 現存在の存在性格

153 世界内存在

154 世界内存在の三つの契機

155 第一の契機——世界内

156 第二の契機——存在者

157 第三の契機——内存在

158 カテゴリーとしての「うちにある」こと

159 実存カテゴリーとしての「内存在」

160 「もとに存在すること」の分析方法

161 現存在の実際のありかたと事実性

162 内存在と内部性の存在論的な差異

163 内存在の「配慮的な気遣い」のありかた

- 164 内存在とは
- 165 環境世界の哲学的な意味
- 166 世界内存在の歪曲と誤解
- 167 世界内存在の存在論的な暗さ
- 168 次節の課題

- 186 世界性としての世界
- 187 「世界的」の語
- 188 伝統的な存在論の欠陥
- 189 予防策の必要性
- 190 必要な方法
- 191 第一の手掛かりとしての環境世界の概念

第13節 基礎づけられた様態による内存在の例示。世界認識

- 169 世界の認識の外面的な解釈
- 170 認識の概念のもつ諸問題
- 171 認識問題について決定を下すべき審級
- 172 認識という営みの意味
- 173 認識における内部と外部
- 174 世界内存在の解釈の必要性

A 環境世界性と世界性一般の分析

第15節 環境世界において出会う存在者の存在

- 192 現象学的な問いの対象
- 193 排除すべき解釈傾向
- 194 事物や価値をおびた事物の概念の存在論的な不十分さ
- 195 道具
- 196 道具の全体性
- 197 手元存在性
- 198 実践的な態度と理論的な態度の違い
- 199 道具と製品
- 200 製品の用途としての〈何のために〉
- 201 素材として出会う自然
- 202 生ける自然と眼前存在的な自然
- 203 製品の世界との出会い
- 204 手元存在性と眼前存在性の関係
- 205 世界現象の存在論的な理解についての問い

第3章 世界の世界性

第14節 世界一般の世界性という理念

- 175 存在者の記述
- 176 第一の主題としての自然
- 177 自然の解明の存在論的な欠陥
- 178 「価値をおびた事物」の解明
- 179 二つの道についての消極的な結論
- 180 「世界」への問いとは
- 181 実存カテゴリーとしての世界性
- 182 「世界」の語の解明の必要性
- 183 眼前存在者の総体としての世界
- 184 存在者の存在としての世界
- 185 現存在の生活の場としての世界

第16節 世界内部的な存在者においてみずからを告示する環境世界の
世界適合性

- 206 道具の示す世界性
- 207 新しい道
- 208 手元存在者の眼前存在性——目立つありかた
- 209 不在のものの発見——催促がましさ
- 210 邪魔になるものの煩わしさ
- 211 がらくたになった道具の用具的な存在性
- 212 世界現象の把握へ
- 213 道具の世界適合性
- 214 世界の告示
- 215 「そこにある存在」
- 216 手元存在者と世界
- 217 用具的な存在の「なさ」
- 218 世界の開示
- 219 世界性の現象への新たな問い
- 220 分析の課題

●MEMO●